協賛企業・団体募集のご案内

子どもたちへの気象や環境に関する様々な出前授業を全国各地の小中学校や幼稚園などで実施しております。天気の実験やクイズを織り交ぜ、楽しみながら学べる授業です。天気や環境に関心を持ち、防災や地球環境を守る行動に繋げられるよう、気象キャスターネットワークが分かりやすく解説します。皆様のご協賛、ご支援をよろしくお願いいたします。

講演・イベント承ります

気象キャスターや気象予報士が、天気や防災、環境について講演や講座、イベントなどを全国各地で開催しています。気象キャスターによる講演のほか、親子で楽しく学べるイベントなども多数実施しております。詳しくは当会HPよりお問い合わせください。

【講演例】・地球温暖化の影響と災害への備え
・気象キャスターがみた地球温暖化と異常気象

WCNおすすめコンテンツ

気象キャスターネットワークwith YouTube

気象キャスターネットワーク
チャンネル登録者数 323人

気象予報士と学ぶ2023年の熱中症対策

当会では、YouTubeチャンネルにて**熱中症対策**や**２１００年の天気予報**などの動画をアップしています。他にも、家族で楽しめる天気の実験動画や、会員の方からお寄せいただいた動画をアップしています。

チャンネル登録お待ちしています！

8月1日は「水の日」
8月1日～7日は「水の週間」です

水の日・水の週間には、水の貴重さや大切さを考えるための様々な行事・イベントが行われていて、気象キャスターネットワークもイベントに協力をしています。

主催：水循環政策本部、東京都、
水の週間実行委員会ほか

後援：文部科学省、厚生労働省、
農林水産省、経済産業省、環境省ほか

発行
NPO法人　気象キャスターネットワーク

私たちは、全国で活躍する気象キャスターとその経験者、気象予報士などが一体となって、地球環境問題の解決や気象災害の軽減に関する知識普及啓発活動を行いことを目的として2004年に設立された特定非営利活動法人です。

〒110-0002
東京都台東区上野桜木1-14-21
高遠レジデンス上野桜木202号室
TEL：03-5832-9401　FAX：03-5832-9402

表紙写真：服部由佳さん
発行日：2023年７月12日

NPO法人気象キャスターネットワーク会報

空色レポート
SORAIRO REPORT

気象キャスターネットワークの活動をご紹介

21号
2023

特集
「これからの気象キャスター」

特集
これからの気象キャスター

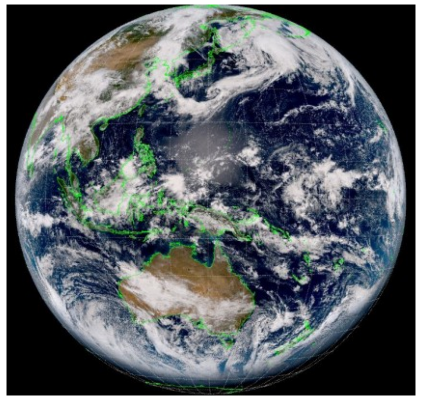
吉竹顕彰さんは、1990年より30年以上にわたりNHK福岡局で気象キャスターを担当。2023年3月に第74回日本放送協会文化賞を受賞しました。気象キャスターネットワークにも設立当初から尽力いただいている吉竹さんに、気象キャスターの心得についてお話をお聞きしました。

吉竹顕彰さん
（正会員）

私がNHK福岡放送局の気象キャスターとして気象解説を担当して33年目になりました。テレビなどでの気象解説のやり方は、キャスターそれぞれあると思いますが、私の経験に基づいた大切な心得をお伝えしたいと思います。

「実況を視る」

まずその日の放送に備えて、最初に気象衛星の雲を視ます。全球画像からです。俯瞰的、これが大切です。中緯度の高気圧の盛衰や台風発生に影響を与える赤道付近の対流活動がどうなっているか。そして、中緯度帯の雲と日本の天気を支配する２本の偏西風がどう流れているのか確認します。次に地上天気図と高層天気図で東アジア全体の大気の状態を立体的に把握、そして気象レーダやアメダスで自分が担当するエリアの気象状況を確認します。なぜ、この雲が発生しているのか、雨が降っているのか、気温が高いのか、その理由を実況がすべて語ってくれます。実況は今後の予測の道しるべです。



実況はまさに神様です。

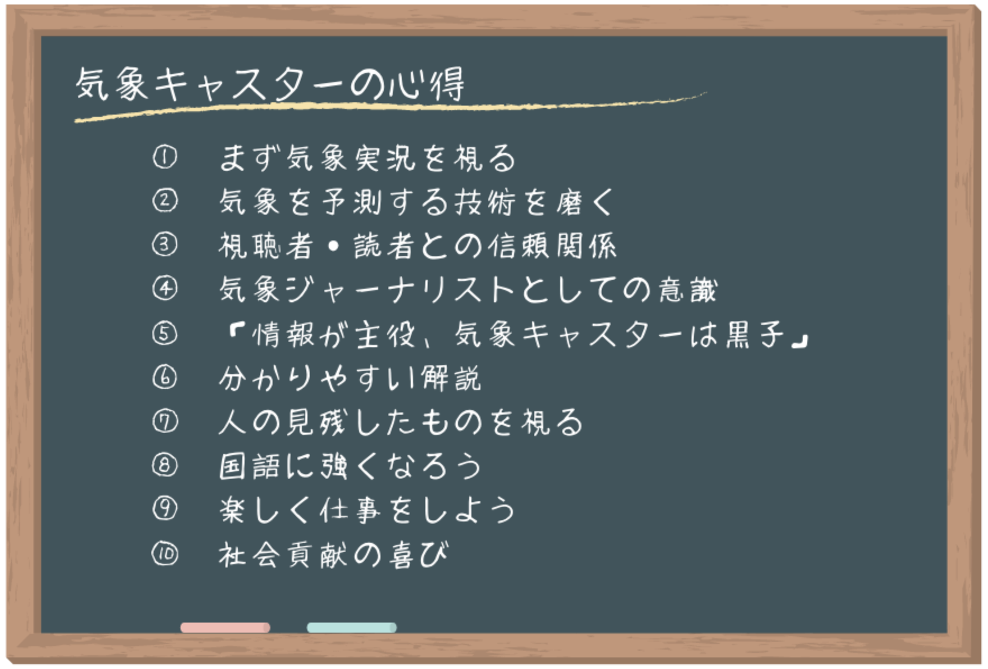
「気象予測の技術を磨く」

次に予測資料を解析します。気象庁のGSM、MSM資料を解析、さらにヨーロッパモデルやアメリカなど海外の予測資料も参考にして、自分で担当エリアの予測を組み立てます。予測は短期から２週間、さらに定期的に１か月から３か月の長期予測も行います。最後に気象庁や民間気象会社の天気予報を見て、自分の予測との一致点、相違点を確認し、自分の予測や見解をベースに放送します。気象庁などの予想を右から左へ伝えるより、より説得力のある情報となり視聴者の信頼も得られます。当然、責任もともないます。

大雨や台風などの緊急報道の際は、この実況解析力、予測力、そして判断力がより重要になります。私の場合「実況・予測７割、気象庁情報２割、防災警戒点１割」です。例えば大雨の際は、気象衛星、気象レーダ、気象庁キキクルなどの刻々と変わるリアルタイムの実況画面を見ながら、「どの市町村が危ないのか」「今後、雨雲はどうなるのか」「大雨の原因は何か」「防災上、何をすべきか」などを自分の判断と責任で伝えていきます。私はこれを「リアルタイム解説」とよんでいます。時間が経つにつれてMSMの雨予想動画や気象庁から発表される情報などと実際の雨の降り方が乖離するケースが多くなり、緊急を要するときほどこのリアルタイム解説が重要になります。もちろん気象庁が発表する雨量予想の数字や台風進路図を変えることはできません。これらの情報を補完する形で、自分の解析力と判断力でより詳しい情報を視聴者に伝えていきます。

このような日々の気象情報や緊急報道の際の実況解析力、予測力、情報発信力が『視聴者の信頼を得る』ことにつながります。さらに私が大切にしていることは『気象ジャーナリストとしての意識』『主役は情報、気象キャスターは黒子』『わかりやすい解説』『人の見残したものを視る』『国語に強くなろう』『楽しく仕事をしよう』『社会貢献の喜び』という心得です。

これからの時代、地球温暖化などによる気候変動と社会との密接な関係性や影響がますます注目されるでしょう。また、私たちはテレビ・ラジオなどの放送だけではなく、多用なメディアでの文章による情報発信の機会も増えてくるでしょう。これからは気象と社会との密接な関係性の中で気象現象を俯瞰的に捉え、AIを含む技術の進歩も取り込みながら科学的論理的に解析・予測できる、そして自分の言葉で責任を持って情報発信することができる気象キャスターや気象プロフェッサーが求められる時代になっていくと思います。



おすすめです、星空観察

酒井晋一郎さん
（正会員）

子どものころから星や天文のことが好きで、お小遣いを貯めて購入した天体望遠鏡で夜空を眺めていました。現在は、大人買いした撮影機材を携えて天体観測を行っており、観測に向かう際は気象予報士の知識や経験をフル動員して夜空の条件を吟味しています。

真っ先に確認するのは数値予報モデル。下層から上層にかけて夜間に雲がかからないことが条件です。天体写真は長時間露出をして撮影するため、撮影中に雲がかかると撮り直しになってしまいます…。

また、満月前後は月明かりで天体も写りにくくなるので、月の影響が小さい時期や時間帯がいいですね。なお、これらの条件がそろっても黄砂やPM2.5が飛来すると天体が霞むため、気象庁の黄砂情報や環境省の「そらまめ君」もこまめに確認しています。

より美しい天体写真を撮影するため、私は観測条件を絞っているのですが、気軽に星空を眺めるときは「晴れて雲が少ない」だけで十分に楽しむことができますよ。
私がおススメしたい気軽な星空観察は、「月・惑星の接近」と「流星群」です。

惑星は太陽の通り道（黄道）付近を移動し、月も黄道に近いところ（白道）を通るため、月と惑星たちは時々接近しています。月はもちろんのこと、惑星も十分に明るいため、互いに近づいて輝きを競う姿は目を惹きます。

また、月明かりの少ない夜は流星観察に向いています。特に、ペルセウス座流星群（8月13日頃に極大）やしぶんぎ座流星群（1月4日頃に極大）は、夏休み・冬休みの時期に当たるため、家族で一緒に眺められる流星群ではないでしょうか。

天気のいい夜は星空観察もいいものですよ。

→オリオン大星雲：著者撮影

食レポート

吉村真希さん
（正会員）

関西のスーパーではお馴染みの、旬の果物“イチジク”をご紹介します。
「不老不死の果物」と呼ばれるほど栄養価が高く、特に女性には嬉しい効果がいっぱいです。水溶性食物繊維が豊富で、便秘解消や美肌にはもってこい。タンパク質分解酵素のフィシンが含まれているため、お肉と一緒に食べることで胃腸の調子を整えて消化を促進してくれます。
食後のデザートに生で食べるのは勿論、前菜として「イチジクと生ハムのサラダ（イチジクドレッシング添え）」にしたり“ミートソース”に加え加熱しても、適度な甘みとつぶつぶ食感がプラスされてとても美味しいんですよ！
家計にも優しいのですが、食べすぎには注意をしてください！（自戒の意味を込めて）

事務局スタッフ
おすすめ書籍のご紹介

緑書房
文・写真　武田康男

大気の現象を含め、地球は水の惑星です。
国内外のさまざまな水の姿を自ら撮った
写真で紹介しました。

熱中症予防情報公開中

暑さ指数（WBGT）を表示するページを開設しております。WBGTは、気温だけでなく湿度などを加味した体感温度を表現する指数で、熱中症の危険度がわかります。パソコン向けページでは好きな地点を検索表示することが可能で、スマートフォン向けページではGPS機能で現在地の暑さ指数を手軽に表示できる形となっています。情報は毎日更新されます。学校現場など、この夏の熱中症対策にぜひご利用ください。

詳しくは当会ＨＰへ！
スマホ・携帯でも閲覧できます
http://www.weathercaster.jp/heat_stroke/

↑白馬岩岳マウンテンリゾート(５月)からの景色：筆者撮影

北アルプスが教えてくれること

気象キャスターに初めて採用されて以来、信州生活が20年ほど続いています。

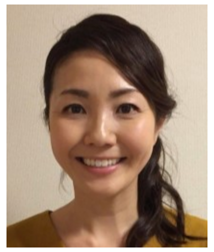
長年暮らしてみて感じる信州の良さといえば、どの季節も深く濃く味わえることでしょうか。特に五感を楽しませてくれるのが「山」の存在です。

今でも白馬に出かけると、眼前に広がる雄大な北アルプスに圧倒されます。何より初夏の山が魅力的で、頂に雪が残る中、麓から木々が色を濃くする姿は生命力に溢れ、青空を背負うと息を飲む美しさです。季語で「山笑う(春)、山滴る(夏)、山粧う(秋)、山眠る(冬)」とありますが、これらの言葉では形容しきれない山の姿があることを教えてもらいました。

一方で、気象予報士にとって山は少々面倒な存在でもあります。西からやってきた雨雲は北アルプスの壁に遮られるため、隣の岐阜県では大雨でも、長野県に入る頃には随分と弱まり、予報に苦労させられます。

冬もしかりで、日本海で発生した雪雲は山の影響を大きく受けます。長野市の場合、西風の時は雪雲が北アルプスに遮られますが、北～北東風の時は山と山の隙間を縫って流れ込むため、積雪が一気に増えます。雪の予報は地形と風向きを考慮する必要があります。

「南北に長く天候が様々な長野県で気象予報士として一人前になれたのなら、どこでもやっていける」。新人の頃に先輩方から伝えられた言葉です。一人前になれたとは到底思えませんが、美しい自然に感謝しつつ、その隣にある怖さもしっかり伝えていきたいと思っています。



松元梓さん
（正会員）

関西色に染まりました

広瀬駿さん
（正会員）

大阪で生活するようになり、はや7年目。愛媛県出身で学生時代は横浜で過ごした私にとって、関西は縁もゆかりもない地域でした。関西弁怖いな。毎週自転車のサドルが盗まれる地域なのかなと思っていましたが、住めば都(とんでもない偏見を持ってごめんなさい)。マンションに強盗が一度入ったくらいで(私の住む部屋とは別住人の部屋)、治安の悪さを感じたことはあまりありません。大阪の人は温かく、いじられキャラの私にとって関西は居心地の良い場所にも感じます。北海道でお天気キャスターとしてデビューした頃はガチガチに緊張していましたが、関西で鍛えられたおかげで、天気予報を伝えながら歌ったり踊ったりスケートを滑ったりしても、何の恥じらいもなくなりました。

さて、外の地域からやって来た私から見て、関西とはどんな場所か。真っ先に挙げたい点は、生活のなかに「暦」が根付いている地域だということです。

１年の折り返し地点である６月30日の「夏越の大祓」には茅の輪くぐりをして穢れを落とし、残り半年の健康を願います。

また、暑気払いとして、氷をかたどった水無月という和菓子を食べる風習も。

↑2020年６月に手作りした水無月：筆者撮影

７月２日ごろの「半夏生」では、タコの足のように稲がしっかり根を張るよう願掛けでタコを食べます。

８月下旬に地域のお地蔵さんを囲む夏祭り「地蔵盆」は、近畿独自の風習でしょうか。

大阪市内・地蔵盆の様子：筆者撮影

「コンチキチン」が何の擬音語か、ほかの地域で想像できる人は少ないかと思いますが、関西人の頭の中では祇園祭のお囃子が鳴り響き、盛暑の夏を思い出します。

暑い夏に鱧を食べ、寒い冬に日本海で獲れたカニを味わう。関西は歴史ある地域だからこそ、季節の歩みとともに日々を楽しむ行事や風習が、いまも色濃く残っているように思います。「季節感」において視聴者の目の肥えている地域ともいえますので、お天気キャスターとしてもセンサーを張り巡らせて、身の回りで起きている季節の変化をキャッチできるよう心がけています。

私は今年の春から在京のテレビ局でもお天気キャスターとして働き始め、毎週大阪と東京を往復する生活を送っています。まだ東京の職場に慣れていないためか、わざとボケてツッコミ待ちをして、多くのスタッフを困らせています。暦と歩む関西がどんな魅力のある地域か、関東や全国の皆さんにも紹介したいですが、関西モードと関東モードを使い分けられるようになることが、いま一番の目標です。